

「グランシップ伝統芸能普及プログラム」大学連携事業  
**常葉学園大学教育学部初等教育課程の学生が能楽を体験します**  
～教員を目指す学生が能楽師から直接学び、国語・音楽等の授業に生かす～

## 1 要旨

財団法人静岡県文化財団・グランシップでは、一昨年度より「伝統芸能普及プログラム」を実施し、市町の文化施設や教育機関と連携して能楽などの伝統芸能がもつ魅力や特徴などを多角的に紹介しています。今回は、教員を目指している常葉学園大学教育学部初等教育課程の学生が能楽師のお稽古を受け、国語・音楽等の授業に生かせるよう、自らが能を体験します。

## 2 概要

区分	内容
公演名	グランシップ伝統芸能普及プログラム「触れてみよう能楽師」
日時	平成25年2月9日(土) 10:00～12:30
会場	常葉学園大学短期大学(静岡市葵区瀬名2-2-1)和室 ※4年生大学の校舎ではありませんので、ご注意ください。受講生は4年生大学の学生。
講師	観世芳伸(観世流シテ方 二十六世宗家観世清和氏実弟) 清水義成(観世流シテ方) 八反田智子(一噌流笛方) 大山容子(大倉流小鼓方)
受講生	常葉学園大学教育学部初等教育課程(国語専攻・音楽専攻他)55名
講義内容 ※詳細は次頁参照	・能「羽衣」実演 ・能「羽衣」についての解説、能楽師自己紹介 ・シテ方、笛方、小鼓方のグループに分かれて体験 ・謡、掛け声の体験 ・能「羽衣」の実演(体験する前に観たものを再度鑑賞)
本プログラムの 目的・特徴	グランシップで継続している能楽公演を単なる興行的公演で終わらせず、地域と連携したプログラムとして構成しています。また、各地で開催されているアウトリーチ事業は決まったものを様々な場所で同じように公演することが多く見られますが、本事業は各地域や機関の実情に合わせ、内容や出演者を個別に選定しています。能楽という芸術だけでなく、“能楽師”という演者・芸術家の人としての魅力にも触れることができます。 今回は大学生に能楽の知識を提供するだけでなく、彼らが学校教育の現場に立った際に、学習指導要領に掲載されている事項を自分が体験したものとして、生徒に指導ができるための貴重な機会となります。
主催	財団法人静岡県文化財団/常葉学園大学

## 3 取材申込・お問い合わせ

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

指定管理者:(財)静岡県文化財団 企画制作課 電話 054-203-5714 (担当:望月・関川・渡邊)

## 【講義について】

シテ方、笛方、小鼓方のグループに分かれて受ける講義内容について。  
シテ方は全員体験、笛方と小鼓方は学生がどちらかを選択します。

### ○シテ方の部屋（和室にて）

シテ方の基本…シテ方から見た能楽とは？

シテ方の役割…シテ方が担う各役割（舞、謡等）

簡単な体験…「カマエ」「ハコビ」の体験

能面・扇・装束の説明…本物の能面、扇、装束を間近で見えます

### ○笛方の部屋（121 教室にて）

能楽の基本…囃子方（笛方）から見た能楽とは？

笛方の役割…笛方が担う役割

唱歌の説明…唱歌を体験

能管の体験…能管を吹いてみます

### ○小鼓方の体験（122 教室にて）

能楽の基本…囃子方（小鼓方）から見た能楽とは？

小鼓方の役割…小鼓方が担う役割

小鼓の説明…小鼓を分解してみます

小鼓の体験…小鼓を打ってみます

★シテ方…主に舞や謡を担い、シテ（主役）、ツレ（シテの助演者）、後見（演者の手助けをする役）、地謡（合唱）を担当します。

囃子方…笛、小鼓、大鼓、太鼓の四人（または三人）で演奏を担当します。